

# 研究協力のお願

昭和大学横浜市北部病院では、下記の臨床研究(学術研究)を行います。研究目的や研究方法は以下の通りです。この掲示などによるお知らせの後、臨床情報の研究使用を許可しない旨のご連絡がない場合においては、ご同意をいただいたものとして実施されます。皆様方におかれましては研究の趣旨をご理解いただき、本研究へのご協力を賜りますようお願い申し上げます。

この研究への参加を希望されない場合、また、研究に関するご質問は問い合わせ先へ電話等にてご連絡ください。

大型の瘻孔を有する有癭性膿胸に対する有茎肋間筋弁差し込み閉鎖法の有用性の検討

## 1. 研究の対象および研究対象期間

2015年1月1日から2024年3月31日に昭和大学横浜市北部病院 呼吸器センターで有癭性膿胸に対する手術を行った患者さん

## 2. 研究目的・方法

膿胸とは、肺と胸の壁(胸壁)にある胸腔と呼ばれる空間に細菌が繁殖する感染症です。治療は細菌が繁殖した胸腔に管を挿入し貯まった膿を体の外に排出する胸腔ドレナージ治療と抗菌薬治療が行われます。これら治療で軽快が得られない場合は手術治療が行われます。この膿胸は無癭性膿胸と有癭性膿胸の2種に分類されます。後者の有癭性膿胸は肺に穴(瘻孔)が空いている状況であり、前者に比べ重篤であり、この瘻孔が閉じなければ治癒に至れません。特に大型の瘻孔である場合、その瘻孔自体が感染状態であるために、1回の手術で閉じることは困難とされてきました。このため、まず1回目の手術で胸壁に人の手が入る程度の穴を敢えて手術で作成し(開窓術)、感染を落ち着かせた数か月後に、瘻孔と敢えて作成した胸壁の穴を閉じるといった2回目の手術を行う伝統的手術(2期的手術)が行われています。この伝統的な治療方法は非常に月日がかかると同時に、患者さんの生活の質を落します。そこで我々は大型の瘻孔を強固に閉じる手技を行えば、2回の手術わたる伝統的手術を行うことなく、1回の手術で治療を完了せしめ、治療期間を短くすることができるのではないかと考えました。

肋間筋は肋骨の間にある筋肉で呼吸器外科手術の修復材料として一般に使用されています。我々は2015年より大型の有癭性膿胸の患者さんの手術で、この肋間筋を使用して瘻孔を閉鎖する手術を行ってきました。結果、強固な閉鎖を可能とし、1回の手術で治療期間を大幅に短縮させる成果につながっています。

今回、当科で手術を受けた大型の瘻孔を有する有癭性膿胸の患者さんの治療経過をカルテ情報から振り返り、この疾患の手術治療法の有用性の検討することを行います。

## 3. 研究期間

昭和大学における人を対象とする研究等に関する倫理委員会審査後、委員会から発行される「審査結果通知書の承認日」より、研究実施機関の長の研究実施許可を得てから 2025年 3月 31日まで

**4．研究に用いる試料・情報の種類**

患者背景（年齢、性別、身長、体重、既往歴、現病歴）および臨床検査項目（血液検査、X線、CT、細菌培養検査）治療法・手術法（手術所見含める）、入院日数、膿胸再燃の有無、予後の情報

**5．外部への試料・情報の提供**

該当いたしません

**6．研究組織**

研究責任者 昭和大学横浜市北部病院 呼吸器センター 植松秀護

**7．お問い合わせ先**

本研究に関するご質問等がありましたら下記の連絡先までお問い合わせください。ご希望があれば、他の研究対象者の個人情報及び知的財産の保護に支障がない範囲内で、研究計画書及び関連資料を閲覧することが出来ますのでお申出ください。また、試料・情報が当該研究に用いられることについて患者さんもしくは患者さんの代理人の方にご了承いただけない場合には研究対象者としませんので、下記の連絡先までお申出ください。その場合でも患者さんに不利益が生じることはありません。

照会先および研究への利用を拒否する場合の連絡先：

所属：呼吸器センター 氏名：植松 秀護

住所：神奈川県横浜市都筑区茅ヶ崎中央 35-1 電話番号：045-949-7000